



- 01 三重病院のコロナの入院例について
- 02 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ
1病棟のせいかつ
- 通所支援事業のひとコマ
- 03 5病棟の生活のひとコマ^⑧
今月のみえツウちゃん／外来からのお知らせ
- 04 病院からのお願い／外来診察のご案内

三重病院の コロナの 入院例について

梅雨が明け暑い毎日が続いておりすがいかがお過ごしでしょうか。これまでのニュースレターでは新型コロナウイルス感染症 (coronavirus disease 2019; COVID-19) についての話題を何度か提供させて頂きました。三重病院は第二種感染症指定医療機関としての役割を担い、これまでに数多くのCOVID-19小児および成人例を診療してまいりました。そこで今回のニュースレターでは当院で経験したCOVID-19症例の臨床像の詳細を報告させて頂きます。

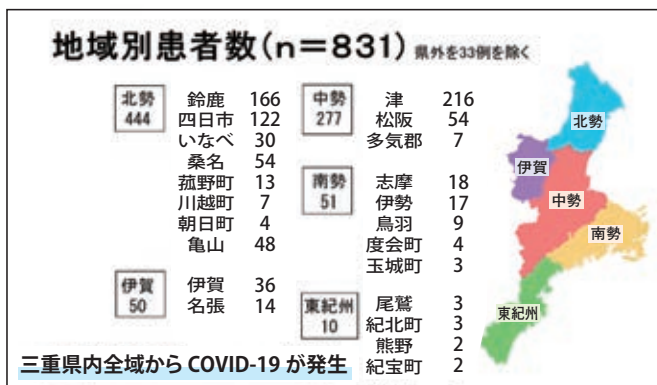
対象はR2年4月からR5年3月に当院へCOVID-19の診断で入院した小児および成人例とし、臨床情報を後方視的に診療録より収集しました。

症例数は864例(うち小児は529例)でした。小児の平均年齢は4.8±4.4歳、男女比は男：女173例：256例、成人の平均年齢は35.0±8.5歳、男女比は男71例：264例が多く、母親の付き添いが多いことを反映したと考えられました。入院例の約16%が外国籍でした(日本726例、ペルー37例、ブラジル31例、スリランカ16例、フィリピン8例、ボリビア6例、バングラディシュ4例、ネパール2例、インドネシア2例、中国2例、ベトナム1例、不明29例)。小児例における基礎疾患については基礎疾患なし448例、神経筋疾患(脳性麻痺、

難治性てんかん、重症心身障害児)20例、呼吸器疾患(気管支喘息)17例、自閉症・発達障害13例、慢性心疾患(先天性心疾患、肺高血圧症、染色体異常)12例、早産児8例、肝胆道系疾患(胆道閉鎖、肝移植)4例、先天性免疫不全、免疫抑制状態3例、

血液疾患、慢性腎疾患、固形悪性腫瘍1例、その他1例でした。[図1]に示す通り三重県を5つの地域別々に示すと入院例は北勢地区からが最多で次に中勢地区でした。市町村別には津市が最多、鈴鹿、四日市と続き、三重県全域から患者が発生し当院へ入院していたことがわかってと思います。入院数の推移は第1波からはじまり第8波まで全国的な発生数とほぼ一致していました[図2]。R4年1月頃よりオミクロン株が流行し、第8波の最中である8月には当院で最多の90例の患者が入院しました。年齢分布は小児例については1歳未満が最多、成人例は30歳代が最多で母親が付き添う例が多かったことを反映していました。小児例の臨床症状は発熱、咳嗽、鼻汁の順に多く、成人例に比して哺乳不良・食思不振、嘔吐下痢などの胃腸症状、熱性痙攣で入院する例が多く認めました。一方、成人例の臨床症状は発熱および咳嗽が多く、小児例に比して咽頭痛、味覚嗅覚障害、頭痛、倦怠感、筋肉痛を多く認めていました。重症度については新型コロナウイルス

【図1】地域別患者数



【図2】入院数の推移

